

## 特定非営利活動法人 a k t a 設 立 趣 旨 書

私たちは2002年から有志として集い、厚生労働省のHIV感染予防推進事業と協働しながら、主にMSM (Men who have Sex with Men: 男性と性交渉をもつ男性)を対象としたHIVの予防啓発活動を行ってきました。2003年からは、新宿二丁目にあるHIV/エイズの情報発信施設“community center akta”の活動を支援してきました。これらを通じて、2011年4月に非営利団体aktaを設立し、東京のゲイコミュニティの中においてHIV予防啓発活動を進めるための環境・体制を整え、HIVをめぐる様々な問題に対して活動を推進しています。

2011年9月27日の厚生労働省エイズ動向委員会の発表によれば、現在東京都における感染報告数は、HIV感染者で全国の約4割、エイズ発症者では約3割となっています。また、日本における累積のHIV感染者報告数は13,083人、エイズ発症者報告数は6,036人であり、そのうちの約8割がMSMであり、大きな割合を占めています。

日本のHIV/エイズの現状をめぐる背景には、社会における病のイメージとして、「死に至る病い」、「恐怖としてのエイズ」、「外国人、セックスワーカーやゲイだけがかかる疫病」といったスティグマや差別があると考えられます。加えて、社会における性をめぐるタブーや偏見の存在も考えられます。こうしたことから、MSMや多様な性のあり方、MSMの間でも特にHIV陽性者の存在が不可視化されてきました。

上記のような状況を変えていくため、私たちは2006年度から2010年度にかけて、厚生労働省のエイズ対策研究事業である「エイズ予防のための戦略研究」MSM首都圏グループに参画し、首都圏に居住するMSMを対象に、HIVの予防啓発・検査普及活動に従事してきました。その介入の結果、首都圏のMSMにおけるHIV検査の受検者割合の増加、エイズ発症で感染がわかるケースの減少という成果をあげる事ができました。しかし、2011年3月をもって「エイズ予防のための戦略研究」が終了した後も、効果的なHIV対策のためには継続した予防啓発活動を展開していくことが必要です。

私たちは日々様々なセクシャリティの人々が集い、HIV/エイズの情報発信施設を持つ新宿から、地域社会に根ざした継続的なHIV対策を推進していきます。HIVのリアリティを伝えることを目的としたMSMを対象とするHIV啓発ツール、他者理解と共生を促進するプログラムやオリジナルの啓発手法を開発・実施することを通じて、HIV対策の展開およびセクシャリティの多様性<Diversity>の理解を広げていきます。そして、多様なセクシャリティや多様な立場の人びとに向けて、MSMを対象としたHIV対策の経験を応用し、日本全国、世界に発信していくことを目指します。

<全ての人々がすでにHIVとともに生きている>という視点から、HIVへの感染機会のある人びととHIV陽性者を対象に予防啓発と支援の両面の重要性を踏まえ、多様なセクシャリティの周知・理解を促すことで、偏見や差別のない、だれもが自分らしく暮らせる街づくりに寄与するために特定非営利活動法人aktaを設立します。

平成24年2月12日

設立代表者 住所 東京都渋谷区神宮前3丁目6番18号  
コーポイットク 2A

氏名 荒木 順子

